

NPO 法人 甲斐駒清流懇話会 平成28年度事業概要

目的と活動

甲斐駒清流懇話会は平成12年に非営利の環境活動を行う団体として組織され、平成22年5月に特定非営利活動法人となりました。当会の趣旨は昭和34年台風災害による土石流の被災地である'白州・武川地域を活動の拠点として、地域の行政関係者や企業や学識経験者、市民と共に協同で活動する環境保護団体です。当会は自然災害の歴史の継承と土石流災害を起こした溪流環境の整備と保全を目的に環境活動を進めている。活動の目的を4つのテーマで分け、1. 地域の災害を語り継ぐ部会として昭和34年災害の被災者の体験談等による伝承、2. 地域の環境を考える部会として、地域住民と共に新しい川づくりを検討し、草刈りや植栽などで河川環境の整備を行い、地域の小学生と父兄に防災教育と溪流環境の学習を進めている。さらに地域の人々が河川に親しむ環境づくりを考え、年間を通じて災害被災地の復興と防災思想の普及を図るため、溪流沿いを歩く清流ウォークとして名水百選の尾白川や大武川等の富士川支流を歩く催しや道の駅を利用し溪流祭りで白州・武川地域の溪流環境の紹介をしながら子供達の溪流魚に親しむイベントを開催し多くの市民と交流をしている。また3. 地域の企業関係者が集まる地域づくり部会と4. 地域の安全を考える部会では防災工事に携わる人々と共に溪流環境の保全について検討し、ダムや堤防の建設によって寸断された溪流に棲む溪流魚の生態系を保護するために人工産卵河川を設け、イワナやヤマメの産卵や孵化を助ける環境づくりを行いつついる。

当会の活動方針は地域に起こる自然災害の防止と災害時の心構え等の防災教育と地域の自然環境を学び、蘇った豊かな溪流環境の保全を考え、地域住民との交流を深め子供達の笑い声が聞こえる新しい河川環境を検討し創生する為の活動を進めて行くものである。

事業内容

春の防災フェア：

「ゆらみず祭り」は、武川町の大武川の復興記念公園「ゆらみず」の施設を使い、地域住民や一般の人々に防災思想の啓蒙を図る事業を開催しています。

富士川砂防事務所の協力で自然災害体験車、降雨体験車を借り、参加者にはその体験車に乗り土石流の疑似体験や建設重機の試乗などができ、テントには台風災害のパネル展示や模型などを設置して、参加者には自然災害に対する心構えを再認識していただく催しです。

期日 4月

甲斐駒清流ウォーク：

砂防施設の見学と地域の歴史や文化を学びながら、田園や甲州街道を歩き、緑の森林浴や清流の流れを楽しみながら、自然災害の起きた地域の復興の経緯を学びながら、地域の歴史文化をたどり、地域住民との交流を図るイベントです。今年で14年目を迎えるこの事業は白州・武川地域を交互に歩きます。

期日 6月第1土曜日

砂防校外授業：

白州小学校・武川小学校の生徒と父兄を招き、防災教育と環境教育を行います。自然災害体験車や降雨体験車に乗り、土石流災害の疑似体験と被災経験者から話しを聞き、溪流に棲む魚などの生態系の学習、模型による土石流の実験、防災工事に携わる建設重機への試乗、溪流にイワナの放流等、日頃経験出来

ない学習を校外授業として被災地である大武川の堰堤にある防災記念公園「ゆらみず」で開催します。
この事業は白州・武川小学校の伝統行事にもなっています。

期日 8月

人工産卵河川の環境整備や砂防施設の見学会等：

新しい川づくり委員会が主体となって富士川支流小武川の源流域に人工産卵河川を造り、毎年周辺の草刈りや人工河川への砂入れ等のメンテナンスを行っている。イワナの産卵は順調に進み、この自然環境を学ぶための一般参加の見学会を計画している。また、新しい川づくりの為の県外の先進地事例や自然災害の被災地等も見学会も行っています・

期日 10～11月

そのほか様々な環境保全活動を地域や行政の方々と協力して取り組んでいます。





